

琳派芸術の真骨頂が今明かされる



琳派400年記念祭

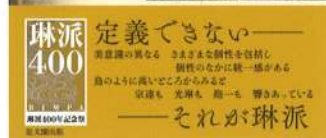
※作品そのものに誠実に向き合い、画像・文献を問わずあらゆる史料を博搜する、堅実な学問的営為でありながら、広範な学識と鋭敏でしなやかな感性に支えられた叙述力で、その時代を生きた作家たちの息づかいまでが伝わる、豊穡な河野美術史の世界。

※日本近世絵画史全体にわたる業績のなから、その中核をなす琳派研究を集大成。

※光悦・宗達・光琳・乾山・抱一・其一など、琳派と呼ばれる芸術家たちが互いにどう影響しあい、独自の美を生み出してきたのか。今もなお人びとを魅了してやまない才能あふれるクリエーターたちの実像に迫る27篇。

琳派四百年記念出版

こうの・もとあき…一九四三年生、京都美術工芸大学学長、
東京大学名誉教授、『國華』元主幹。



予定●目次

序章 琳派と写意

[I]

- 第1章 光悦試論
- 第2章 宗達関係資料と研究史
- 第3章 養源院宗達画考
- 第4章 宗達における町衆的性格と室町文化
- 第5章 宗達から光琳への変質
- 第6章 宗達金銀泥絵序説
- 第7章 琳派の主題
—宗達の場合—
- 第8章 宗達と能

[II]

- 第9章 光琳水墨画の展開と源泉
- 第10章 光琳二大傑作の源泉と特質
- 第11章 尾形光琳と大坂
- 第12章 光琳と能
- 第13章 光琳水波試論
- 第14章 光琳と津軽家
- 第15章 光琳と乾山
—山根有三先生の墓前に捧ぐ—
- 第16章 渡辺始興筆「真写鳥類図巻」について

[III]

- 第17章 乾山の伝記と絵画
- 第18章 乾山と定家
—十二か月花鳥和歌の世界—
- 第19章 乾山と光琳
—兄弟逆転試論—

[IV]

- 第20章 抱一の伝記
- 第21章 抱一の有年紀作品
- 第22章 光琳百図の基底
- 第23章 抱一筆十二か月花鳥図考
- 第24章 抱一筆十二か月花鳥図における和と漢
- 第25章 酒井抱一の芸術
—微光感覚を中心に—
- 第26章 鈴木其一の画業

A5判・870頁／定価：本体9,000円（税別）

【2015年3月刊行】

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel. 075-751-1781 fax. 075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail: pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行：思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	琳派 響きあう美		本体9,000円(税別)	ISBN978-4-7842-1785-4
お名前		tel			
		e-mail			
ご住所	〒				
送本方法	☐ 書店経由（このちらしを書店にお渡し下さい） ☐ 代引（書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い）			本書HPのQRコード 書店番線印	

白象図で見逃してならないのは、

悠揚せまらざる運動感がしっかりと感得される点である。

圧倒的重量を誇り、緩慢な動作の象に意匠化を加えて、

しかもなおムーブマンを確保することは、難しかったであろう。

ゆっくりと後ろを振り返った白象、

のしりと歩き進める白象、

そこには単なる意匠家を越えた画家宗達の、

確かな目と手を見てとることができる。

「養源院宗達画考」



光琳における宗達への私淑ぶりを、

もっとも端的に示しているのは、

光琳による宗達画の模写である。

それらのなかで、もっとも重要な意義をもつのは、

宗達が最後に到達した画境を示す傑作として名高い

「風神雷神図屏風」を写した、

同じ二曲一双の屏風をおいてほかはない。

当然のことながら、多くの美的要素が宗達から光琳へと伝えられた。

まず第一に、明快な装飾的效果である。

モチーフを限定して大胆な意匠化を加える。

背景は総金地とし、鮮やかにしてシンプルな色彩効果をねらう。

遠景をはじめとして、主題の感覚的理解を妨げるものは、徹底的に排除してしまう。

このような日本絵画のなかでもとくに華やかな視覚効果こそ、

両者を貫通するもっとも大きな美的特質だといってよいであろう。

「宗達から光琳への変質」



大きく眺めれば、文人的気質の光悦、乾山により強く惹かれた抱一に対し、其一は専門画家的な宗達・光琳の後継者であったともいえよう。

何れにしろ、其一は琳派におけるすぐれた伝統の余燼をかきたてて、創造的にその掉尾を飾った傑出せる才能であった。

偉大なる先輩、宗達・光琳・抱一と異なる点は、ただかれが私淑によらなかったことである。

「鈴木其一の画業」